

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	12-118	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Early initiation of smoking and alcohol drinking as a predictor of lower forearm bone mineral density in late adolescence: a cohort study in girls. 思春期における早期の喫煙・飲酒と前腕骨密度の関係について：学校少女コホート		
執筆者		
Lucas R, Fraga S, Ramos E, Barros H		
掲載誌		
PLoS One. 2012;7(10):e46940		
キーワード		
喫煙、飲酒、骨密度、思春期、コホート研究		
要旨		
目的： 思春期は骨の成長に重要な時期である。また、同時に喫煙や飲酒などの生活習慣を決定づける時期でもある。思春期女性における喫煙・飲酒開始時期と骨密度の関係を短期的・長期的に明らかにする。		
方法： ポルトガルPortoの公立・私立学校から協力を得られた731名の女性を対象にした前向き研究を行った。対象者が13歳、17歳時に調査を行った。前腕のDXA法による骨密度、身長、体重、除脂肪体重を計測した。性成長の評価には初経年齢を用いた。喫煙、飲酒、運動習慣、カルシウム、ビタミン摂取のデータは自己記入式アンケートから得た。骨密度は連続量または2値(z-scoreのカットオフ値-1.0)として解析した。骨密度と生活習慣との関係にはロジスティック回帰分析を用いた。		
結果： 13歳までに4分の1以上が喫煙、59%が飲酒を経験しており、20%が喫煙・飲酒の両方を経験していた。17歳時における骨密度は、13歳時に喫煙を経験した群、また同様に飲酒を経験した群で低かった。13歳時における横断比較では、骨密度と喫煙、飲酒の経験・頻度との間に有意な関連を認めなかった。17歳時における骨密度z-score<-1以上の低下と13歳までの喫煙経験との間に、初経年齢・運動習慣を調整しても有意差を認め(OR=1.92, 95%CI 1.21-3.05)、同じ時期に喫煙と飲酒の両方を経験した群はOR=2.33, 95%CI 1.36-4.00であった。		
結論： 本研究は、コホート研究により思春期の骨密度低下因子としての喫煙・飲酒の早期暴露の影響を明らかにした。		